【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第６区分
【発行日】令和6年3月21日(2024.3.21)

【国際公開番号】WO2020/094565
【公表番号】特表2022-506738(P2022-506738A)
【公表日】令和4年1月17日(2022.1.17)
【年通号数】公開公報(特許)2022-007
【出願番号】特願2021-524310(P2021-524310)
【国際特許分類】
Ｂ６５Ｃ　9/18(2006.01)
Ｂ２６Ｄ　7/26(2006.01)
Ｂ６５Ｃ　3/16(2006.01)
Ｂ２６Ｄ　1/38(2006.01)
Ｂ６５Ｃ　9/42(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６５Ｃ　9/18
Ｂ２６Ｄ　7/26
Ｂ６５Ｃ　3/16
Ｂ２６Ｄ　1/38　　Ｄ
Ｂ６５Ｃ　9/42

【誤訳訂正書】
【提出日】令和6年3月11日(2024.3.11)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００６】
更に、例えば独国特許第６９８２２２３８号明細書（Ｔ２）から、ロールの表面線に沿って配置された回転するブレードを備えた切断装置と回転しない相手ブレードを備える、巻き取られたラベルフィルムを連続的に導入するラベリング装置が知られるようになった。この場合、分離されたラベルを把持し、接着剤を所定の領域に塗布する高温のロールに移送し、その後容器に移送するためのドラムが設けられている。この文献は、特に、ラベリング装置が、回転しない相手ブレード用の一体的で弾性的な保持部を有し、その保持部は、相手ブレードをブレードから離間させる又はブレードに接近させることができるように、回転点を中心とした旋回運動を可能にすることによって際立っている。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１３】
この場合、別の有利な実施バリエーションによれば、切替え及び調整装置が、両ジョイント部分を実現する固体ジョイントを備えること、が企図され得る。即ち、第１並びに第２のジョイント部分は、固体ジョイントによって形成され得る。即ち、換言すれば、固体ジョイントは、二重固体ジョイント形態の第１並びに第２のジョイント部分を備える。従って、固体ジョイントは、第１及び第２のジョイント部分を備えた二重固体ジョイントとして形成されている。即ち、固体ジョイントは、第１及び第２のジョイント部分が固体ジ

ョイントだけによって形成された二重固体ジョイントとして形成されていることを企図し得る。第１及び第２のジョイント部分は、有利には一部材で、特に固体ジョイントと一体的に形成され得る。固体ジョイントの第１及び／又は第２のジョイント部分は、例えば材料狭窄部の形態の省材料部及び／又は固体ジョイントの曲げ部として設けることができる。これにより、有利には、二重固体ジョイントは、少なくともその第１及び第２のジョイント部分の領域内を弾性変形可能に形成されている。例えば、固体ジョイントは、実質的にＵ字又はＣ字プロファイル状の固体ジョイントとして設けることができる。二重固体ジョイントの形式に応じて固体ジョイントを形成することにより、機械的に特に簡単に実現すべきジョイント部分が、切替え及び調整装置に提供される。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１８】
この場合、更に別の有利な実施バリエーションによれば、切替え及び調整装置が、実質的にＬ字状に延在する切替えレバー要素を備え、この切替えレバー要素は、切断位置と待機位置の間の旋回運動を相手ナイフに導入するために、第１の側でもって基礎脚部分と結合され、第２の側でもって、切替えレバー要素が調整運動の導入時に切替え装置を介して第１のジョイント領域を中心として制御下で旋回可能であるように、切替え装置と直接的又は間接的に協働すること、が企図され得る。

【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４０】
第１及び第２のジョイント部分ＧＡ１，ＧＡ２は、有利には一部材で、特に固体ジョイント１４と一体的に形成することができる。固体ジョイント１４の第１及び／又は第２のジョイント部分ＧＡ１，ＧＡ２は、例えば材料狭窄部の形態の省材料部及び／又は固体ジョイント１４の曲げ部として設けることができる。これにより、有利には、二重固体ジョイント１４は、少なくともその第１及び第２のジョイント部分ＧＡ１，ＧＡ２の領域内を弾性変形可能に形成されている。

【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４５】
基礎脚部分１４．３に、切替え及び調整装置１３は、切断位置ＳＰと待機位置ＷＰの間の旋回運動を相手ナイフ１２に導入するために、実質的に平面図でＬ字状に延在する切替えレバー要素１６を備える。切替えレバー要素１６は、短い脚に形成されたその第１の側１６．１でもって、不動に、しかしながら解離可能に基礎脚部分１４．３に配置、特にこの基礎脚部分と結合され、長い脚に形成されたその第２の側１６．２でもって、切替えレバー要素１６が調整運動の導入時に切替え装置１９を介して第１のジョイント部分ＧＡ１を中心として旋回可能であるように、収容部２３を介して切替え装置１９と協働する。両側の旋回運動が、二重矢印Ｅで示されている。

【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４６

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４６】
加えて、切替えレバー要素１６は、第２の側１６．２のその自由端部分の領域に機械的なストッパ２０を備え、このストッパによって、待機位置ＷＰと切断位置ＳＰの間の切替えレバー要素１６の変位、即ち旋回運動のストロークが設定可能である。例えば、ストッパ２０は、ホルダ１５にねじ込まれたネジ付きスピンドル２０．１によって構成することができ、このネジ付きスピンドルには、切替えレバー要素１６の対向する各側に、例えばナットの形態のそれぞれ１つのストッパ要素２０．２，２０．３が設けられている。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４７】
この場合、ネジ付きスピンドル２０．１のホルダ１５とは反対の側に設けられたストッパ要素２０．２は、相手ナイフ１３がその切断位置ＳＰ、即ちラベル３を切断するために切断ドラムナイフ１２と係合している切替えレバー要素１６の最大可能な変位用の機械的なエンドストッパを形成するが、ネジ付きスピンドル２０．１のホルダ１５の側に設けられたストッパ要素２０．３は、相手ナイフ１３が切断ドラムナイフ１２と係脱している待機位置ＷＰ用の機械的なエンドストッパを形成する。ネジ付きスピンドル２０．１の縦軸に沿ったそれぞれのストッパ要素２０．２，２０．３の回転により、相応のエンドストッパを無段階に設定することができる。
【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４８】
加えて、切替え及び調整装置１３は、その第２の側方脚部分１４．２にナイフホルダ１７を備え、このナイフホルダに、相手ナイフ１２が交換可能に、しかも例えばドラム軸ＴＡに対して平行に延在するように保持されている。しかしながら、特に好ましくは、ナイフは、ドラム軸に対して若干の傾斜、例えば０．１５°の傾斜を備える。
【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項１０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項１０】
切替え及び調整装置（１３）が、実質的にＬ字状に延在する切替えレバー要素（１６）を備え、この切替えレバー要素は、切断位置（ＳＰ）と待機位置（ＷＰ）の間の旋回運動を相手ナイフ（１２）に導入するために、第１の側（１６．１）でもって基礎脚部分（１４．３）と結合され、第２の側（１６．２）でもって、切替えレバー要素（１６）が調整運動の導入時に切替え装置（１９）を介して第１のジョイント領域（ＧＡ１）を中心として制御下で旋回可能であるように、切替え装置（１９）と直接的又は間接的に協働すること、を特徴とする請求項１～９のいずれか１項に記載の切断機構。